男鹿温泉交流会館五風 なまはげ太鼓

なまはげ太鼓は、男鹿に特有の舞台芸術で、太鼓の演奏と同地域のなまはげの独特な動き及び外見を組み合わせたものです。実際のなまはげの伝統の一部ではありませんが、これらのショーは同地域でかなり人気が出て、30年以上披露され続けています。恐ろしい外見のなまはげが激しく大きな太鼓を叩く光景は見逃せないものであり、男鹿を訪問する人全てにオススメです。今日男鹿では、約6つのグループが定期的になまはげ太鼓を披露しており、地元の高校の1つにはなまはげ太鼓チームすらあります。

仮面を被った神の使いと伝統的な太鼓演奏を初めて組み合わせるようになったのは、1970年代後半のことでした。このアイデアは、男鹿温泉エリアのホテルや旅館の滞在客を楽しませる目新しい出し物として考案されたものです。しかし初期段階では、なまはげの衣装と仮面を全部被りながら太鼓をたたくのは予想より難しく、ショーが頻繁に開催されるようになったのは最初のなまはげ太鼓団が結成された1980年代後半になってからでした。ショーは長い間主にはホテルと旅館だけで行われていましたが、そのうちに一般向けに定期的にショーを開催できるスペースを用意する必要が出てきました。

男鹿温泉エリアの村でショーの舞台として現在使用されている男鹿温泉交流会館五風は、2007年に建てられました。その同じ年に、この舞台での現在のなまはげ太鼓の形式が、原始的エネルギー溢れる30から40分の演奏を中心としたショーに定まりました。ここではなまはげは観衆の中を歩き回るので、観衆はなまはげと写真撮影することができます。地元の恩荷グループによるなまはげ太鼓のショーは、4月中旬から11月下旬まで男鹿五風で披露されています。